

BRIDGEPLUS

関東労災病院医療連携情報(令和4年12月号)

Information

地域医療連携室長 ごあいさつ

診療科紹介（精神科）

診療科紹介（神経内科）

総合医療相談センター（MSW部門）

入退院支援部門



地域医療連携室長 ごあいさつ

副院長・整形外科部長・地域医療連携室長

東川 晶郎（ひがしかわ あきろう）

1997年 東京大学医学部医学科卒業
2004年 東京大学医学部附属病院整形外科
2009年 横浜労災病院整形外科
2010年 関東労災病院整形外科



2022年度より地域医療連携室長を拝命しております東川と申します。地域の先生方におかれましては、コロナ禍にもかかわらず多くの患者さんをご紹介くださり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

コロナ禍の影響で、研修会や講演会など地域の先生方や医療スタッフの方々と顔の見える連携を深める会の開催が難しい状況になりました。当初は院内でも各委員会が書面開催で行われることが増え、顔を合わせた議論をする機会が減少していましたが、感染対策の確立などによって徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。

地域の会としては、昨年11月から整形外科クリニカルカンファランスを再開し、近隣の多くの先生方に当院にご参集いただき、改めて顔の見える交流の重要性を痛感いたしました。今後は、さらに多くの部門における研修会や講演会開催に向けて取り組んでいきたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

本誌へのご意見、ご要望がございましたら、右記mailへお寄せ願います。地域医療連携の充実に役立てていけるよう努めてまいります。

発行人：地域医療連携室
☎044-411-3131
mail:renkei4@kantoh.johas.go.jp

BRIDGEPLUS

診療科紹介 (精神科)

精神科医と内科医、両方の知識と経験があり、両者の橋渡しをするリエゾン精神医学を専門のひとつとしています

(精神科 部長 芳賀 高浩)



平日午前外来診療を行っています。午後は主に入院中の患者さんの診療にあたっています。新規患者さんは、院内紹介(入院患者、通院中外来患者)のみの対応となりますので、ご了承ください。

当科の特色は、リエゾン精神医療と、スポーツ領域のメンタルトレーニングになります。リエゾン精神医療は、精神科医療と、身体科医療(内科、外科など)の橋渡しをする医療です。具体的には、身体疾患を有する患者様の抑うつ、意欲低下、せん妄の診療および、統合失調症、うつ病などの精神疾患を有する患者様が身体疾患で入院した際の薬剤調整があげられます。

多角的、多職種的な評価、介入が求められることも多く、当院でも2019年6月より医師、看護師、心理士、作業療法士、薬剤師、精神保健福祉士による精神科リエゾンチームを立ち上げ、カンファレンス、回診を行っています。

リエゾン精神医療分野では論文発表も行っており、先進的な医療を行うことを心がけております。

リエゾン精神医療は主治医(入院した科の主治医)からの依頼で介入します。介入を希望される場合は、主治医にご相談ください。

診療科紹介 (神経内科)

患者さんにとって何が最良の方針か、常に考えながら診療に向き合っています

(神経内科 部長 土屋 敦史)

神経内科は脳や脊髄、神経、筋肉の病気をみる内科です。

体を動かしたり、感じたりすることや、考えたり覚えたりすることが上手にできなくなったときにこのような病気を疑います。

診療内容・治療方針

診療内容は問診と神経内科学的診察が中心ですが、CTやMRI、脳血管撮影などの画像検査、末梢神経伝導速度、針筋電図、脳波などの電気生理学的検査、脳液検査などを必要に応じて補助的に行っています。

脳神経外科と共同して脳梗塞急性期におけるtPA治療、それに引き続く血行再建術についても積極的に施行してまいります。当院には血管内治療専門医が3名在籍しており、血行再建術を施行しています。2021年はtPA使用が20例、急性期血行再建術が29例適応となり治療しました。

次ページへ続く

ボトックス外来も行っていて、斜頸、眼瞼けいれんなど年間約50例に対してボトックス注射による治療を行っています。

当院では神経内科専門医が5名在籍しており、神経難病に対して診療、治療にあたっています。当院名誉院長である柳澤先生も定期的に外来を行っており、診断、治療に苦慮する症例についても協力して診療にあたっています。

治療方針が確定され、他院での診療が可能と判断された時点で、紹介医もしくはかかりつけ医での診療に切り替えていただくといったように、地域医療連携を進めて参ります。

総合医療相談センター (MSW部門)

～ 患者さんの総合相談の受付窓口です ～

総合医療相談センター 医療相談主任 池田 龍男

本館1階4番窓口にある総合医療相談センターをご存じでしょうか。

ここでは入退院受付等の事務手続きのほかに、患者相談や各医療機関様との前方・後方連携業務をおこなっています。

前方連携(通院先・クリニック様との連携事務等)に関しては9名の事務担当者が対応をしています。

後方連携(転院先相談・福祉医療機関・福祉施設との連携等)や総合医療福祉相談に関しては、退院支援看護師・連携事務担当者等と協力しながら、8名の※国家資格を持つMSW(医療ソーシャルワーカーのこと・両立支援専従者1名を含みます。)と相談事務担当者が対応させていただいております。

当院のMSW(医療ソーシャルワーカー)は以下のようなご相談を中心に対応いたしております。

※社会福祉士・精神保健福祉士国家資格のこと。

こんな時にご相談ください

- 転院療養先について(療養型病院・回復期リハビリテーション・認知症・緩和ケア・精神科病院等)
- 介護保険・福祉制度(生活保護を含む)のご利用について
- 老健施設・特養ホーム・有料老人ホーム等(サービス付き高齢者向け住宅・グループホーム他)の施設利用について
- 介護タクシー・民間移送車(民間救急)等のご利用について
- 療養上の心配事について(在宅支援・認知症の福祉相談等を含む)

入退院支援看護師がいます！

外来・入退院支援部門看護師長 小川 征恵

関東労災病院は、地域医療支援病院として急性期医療を行っています。

急性期病院では、治療後「もう退院！？」と思われる早い段階から退院を進めていかなければならないことがあります。私たち入退院支援のスタッフは、限られた入院期間の中で、どうすればすべての患者さんに安心して満足な退院を迎えていただけるだろうかと考え、日々活動しています。

当院では、入退院を支援する仕組みが2つに分かれています。

1つ目は、入院前に治療の内容を確認し、退院後の生活をイメージして入院できるようにする『入院サポートセンター』です。外来受診の段階で、治療上必要な準備（お薬の休薬や、準備しておく物品など）や、入院生活への不安などを事前に確認させていただき、安心して入院できるようサポートしています。入退院支援看護師のほか、薬剤師や事務職などが、一緒に活動しています。

2つ目は、入院直後から退院リスクを主治医や病棟の看護師たちと早期に把握し、協働して支援する『退院支援部門』です。早期退院のため、医療処置を継続し状態で退院を迎える方や、十分な自己管理ができない状態で退院時期を迎えてしまった場合など、退院後も医療介入を継続していけるような体制の整備をお手伝いしています。主治医や病棟看護師を中心に、リハビリ担当や病棟薬剤師、栄養士などのコメディカルのほか、病院内にいる専門・認定看護師と連携し、活動しています。

当院は12月29日から1月3日まで
休診となります。
新年は1月4日より通常の診療を
開始いたします。

